

平成28年度地方創生交付金関係事業の検証・評価結果

No	交付対象事業の名称	交付金の種類	実績額	本事業における重要業績評価指標				外部有識者からの評価		次年度以降の取組等	
				指標	事業開始前	実績値	平成28年度KPI	事業の評価	外部有識者からの意見		
1	大分の元気づくり加速事業(広域事業)	地方創生加速化交付金(2次募集分)	59,100,000円	指標①	観光消費額	2,072億円	2,051億円	2,160億円	基本目標を達成するために、非常に効果的であった。	<ul style="list-style-type: none"> 地震以降の官民連携によるスピーディーな対応により、国政策の復興割から地方事業の連携でV字回復につながった。 観光消費額の把握は観光産業にとって外貨を稼いでやっていくうえにおいても非常に重要。 今回の地震により、漁業関係者などから仕入れが落ちたなどの情報がある。KPIの消費額について、観光業は裾野が広く多くの産業に影響を与えるので産業連関表などのデータも大切。 単年度事業だが、この経験を次の観光政策につなげてほしい。 	平成28年度で事業完了のため無し。
2	4『B』i=4つの『B』の化学反応によるイノベーション創出事業～地域価値と稼ぐ力の復興計画～	地方創生加速化交付金(2次募集分)	10,900,000円	指標①	新商品化数(サービス含む)	0品目	0品目	5品目	基本目標を達成するために、効果があった。	<ul style="list-style-type: none"> 4者がどのような形でコラボレーションして、何を指すのかを調整、アジャストしていくことに時間がかかっている事業の展開が遅い。 従来の商品だけでなく、ブラッシュアップを重ねておもしろい商品ができています。 商品の開発から販売までのシステムに磨きをかけ、スピードをあげて取り組んでほしい。 大学も連携しており、地域で取り組んでいる様子が伺えるが、地域がもっと前面に出て事業を進めるべき。 	平成31年度までに(4年後に)体制の整備及び機能の確立を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度 取組の詳細を検討、試行実施 など(再掲) 平成29年度 取組のブラッシュアップと継続実施、人財育成に向けた大学との連携・育成試行など 平成30年度 取組のブラッシュアップと継続実施など 平成31年度 取組のブラッシュアップと継続実施(廃止取組の決定、DMOや生涯活躍のまちとの連携含む)など
				指標②	新商品販売額	0千円	0千円	50,000千円			
				指標③	新たな雇用創出数	0人	0人	10人			
				指標④	起業・創業者件数	0件	0件	1件			
3	ICT等を活用した観光産業の生産性向上	地方創生推進交付金	7,290,000円	指標①	観光客一人当たりの消費額	11,950円	-838円	170円	基本目標を達成するために、相当程度効果があった。	<ul style="list-style-type: none"> 28年度は調査期間ということで、29年度から実働すると理解している。 ICTに関しては技術の進歩が目覚しく、また多くの業者、多くの機種があるが、まだまだ実用段階にはいたっていないのではないか。 ICTを観光産業にどのくらい取り入れられたかなどをKPIとして使用したほうが参考になるのではないかな。 技術の進歩、外国人観光客が増加する中で、ICTは必要不可欠なツールであり、事業としては将来性がある。 	平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 通訳ICTツールの導入(通訳ICTツール利用費用・試行結果に基づくカスタマイズ費用) 手荷物預かり・配送サービスの実施(観光客への広告宣伝費用) 観光回遊ルート検索システムの構築(デジタルサイネージのコンテンツの開発) サーバ側システムの開発) Webサイト専門アドバイザーの派遣 など 平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 通訳ICTツールの導入(通訳ICTツール利用費用(本展開導入店舗拡大) Webサイト専門アドバイザーの派遣(専門家派遣費用(本展開導入事業者拡大)など
				指標②	観光客数	8,223,200人	-279,179人	58,200人			
				指標③	労働生産性(付加価値額/従業員数(飲食・サービス業))	1,216,126円	-	17,216円			
4	別府は地球の中心・FITはBEPPUをめざすー外国人観光客への「OMOTENASHI」力向上とアクティブシニアの活躍の「場」創出事業	地方創生推進交付金	4,170,000円	指標①	観光客数(外国人観光客)	352,900人	94,512人	16,600人	基本目標を達成するために、相当程度効果があった。	<ul style="list-style-type: none"> インターナショナルプラザの案内所移転により、外国人に場所が分かりやすく相談数が増加している。また、相談内容のデータを収集しており、評価できる。 外国人観光客が増加する中、インバウンドにインターナショナルプラザは大きな役割を果たし、大きな成果をあげている。 24時間外国人コールセンターが設置されたことにより、外国人が安心して滞在できる環境ができています。 外国人観光客の増加や消費額の増加などの指標はKGIであり、また国の政策や外国の経済状況にも左右される。事業の目標設定としてはKPIによる事業の評価が難しいのではないかな。 	平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客案内所(別府インターナショナルプラザによる別府駅案内所・鉄輪地域案内所)の運営 24時間外国人観光客コールセンターの整備 外国人観光客宿泊者数調査 平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客案内所(別府インターナショナルプラザによる別府駅案内所・鉄輪地域案内所)の運営 24時間外国人観光客コールセンターの整備 外国人観光客宿泊者数調査及び検証 体験型アクティビティ創出事業 海外富裕層をメインターゲットとした体験サービスの充実及び県産品の販売力強化
				指標②	観光客一人当たりの消費額(外国人宿泊客)	21,174円	14,673円	21,355円			
				指標③	社会増減	-169人	-276人	-159人			
5	別府人よ！竹産業に燦燦たる光を浴びせよー竹産業イノベーション創出事業	地方創生推進交付金	1,113,554円	指標①	竹細工製作者市内在住者の増加数累計	3人	4人	7人	基本目標を達成するために、効果があった。	<ul style="list-style-type: none"> 事業を通じて竹製品が東京など都市部で需要が高いということが判明したが、需要に生産者が応えきれていない。 竹製品は富裕層への需要が見込めそう。売れる竹製品、商品開発を進めるべき。 ひとつの竹製品が完成するまでに時間がかかり過ぎ、多くを生産できないことから、売上増、利益増につながらない。構造的な問題の解決を図る必要がある。 	平成29年度 <ul style="list-style-type: none"> ワンストップ情報の提供(ホームページの立ち上げ)・パンフの作成・人材の確保(移住定住者の増)・移住者セミナーへの参加・大分県竹細工訓練センター入校生及び卒業生と現役製作者との技術伝承の機会・試作品の製品化と販売・製作者への事業化経営セミナー開催・インキュベーション(創作の場)施設の設置・インバウンドの受入れ 平成30年度 <ul style="list-style-type: none"> 別府発ブランド立ち上げ・別府ブランドの製品化・販路拡大(国内外への販売と有名美術館等への展示)・人材育成システム構築(技術伝承等)・試作品の製品化による竹細工従事者(雇用者)の増
				指標②	竹細工訓練センター入校者の内移住者数	6人	9人	6人			
				指標③	竹細工従業者数	303人	0人	0人			